

第9回 日本免震構造協会賞 -2008-

第9回日本免震構造協会賞は、右に記す諸氏及び作品を表彰することに決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適正な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計、施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果にそれぞれ贈る。作品賞は、免震構造の特質を反映した、優れた建築物とする。

表 彰

2008年5月29日

(社)日本免震構造協会通常総会後

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

神田 順 (委員長) 岡部憲明 小幡 学
河村壮一 北村春幸 平島 寛 村井義則
六鹿正治

審査経過

本年度の日本免震構造協会賞のうち、功労賞については、応募がなく見送った。技術賞については、4件、作品賞については、13件、計17件の応募があり、慎重審議の上、委員会で技術賞1件、技術賞(特別賞)1件、作品賞3件、作品賞(特別賞)2件を選定し、推薦することを決定した。

初回委員会において、事前に送付された応募書類をもとに意見交換を行い、技術賞に関しては、1件の応募辞退を確認し、3件をヒヤリングの対象に、作品賞は7件を現地審査の対象に選出した。作品賞の趣旨は免震構造の特性を生かした優れた建築ということであるが、応募作品の質は高いものが多くなっていると感じられた。

技術賞としては、1件は免震装置を灯台レンズ用に開発したもので、さまざまな工夫改良を加えつつ、多くの実績をあげていることが評価され、委員会で一致して選定した。ゲージ振り子の原理を応用した免震装置についても、実用化を意図した工夫と、その実現については高く評価されたが、今後の実績の見通しについては意見が分かれ、特別賞として選定することとした。

選 考 結 果

第9回日本免震構造協会賞受賞は下記の7件である。

I 技術賞

- 1) 灯台レンズ用免震装置
株式会社奥村組 川井伸泰、舟山勇司、安井健治
- 2) <特別賞>ゲージ振り子の原理に基づく新しい転がり型免震装置の開発
東京大学 川口健一、大矢俊治
岡部株式会社 阿部啓一、阿部純一郎、田口朝康

II 作品賞

- 1) ソニーシティ
ソニー生命保険株式会社 於久田太郎
株式会社ブランテック総合計画事務所 大江 匡
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 柴田育秀
株式会社アルファ構造デザイン事務所 海野敏夫
清水建設株式会社 水田保雄
- 2) 多摩美術大学図書館(八王子キャンパス)
学校法人多摩美術大学 田淵 諭
株式会社伊東豊雄建築設計事務所 伊東豊雄
株式会社佐々木睦朗構設計画研究所 佐々木睦朗
鹿島建設株式会社 青木幹雄、山口圭介
- 3) 日産先進技術開発センター 事務棟
日産自動車株式会社 若狭保夫
株式会社日本設計 大坪 泰、人見泰義、西川大介
清水建設株式会社 加藤喜久
- 4) <特別賞>武蔵野市防災・安全センター
武蔵野市長 邑上守正
株式会社日建設計 寺田隆一、長瀬 悟、中谷 聡
大成建設株式会社 久保田清
- 5) <特別賞>セラミックパークMINO
株式会社川口衛構造設計事務所 川口 衛、阿藤有士
永田構造設計事務所 永田秀正
株式会社磯崎新アトリエ 青木 宏
東急建設株式会社 服部宏己

(敬称略)

作品賞については、2月から3月にわたって現地審査を実施した。例年にならい、建築作品としての空間構成や免震建築としての計画について、担当者から直接に説明を受け、質疑応答の機会をもった。担当者による説明は、十分に準備されたものと、必ずしもそうでないものもあり、審査にあたっては、せつかくの機会を有効に生かすことができない不満が残るものも2件ほどあったが、作品賞としての選定は、建築そのものを委員会として評価することを優先した。

3件の作品賞は、大半の委員が高く評価するものであり、詳細は個々の選評に譲るが、いずれも免震構造を生かした建築を実現している。特別賞については、1件は既存建築が計画の質を決定している面もあり、免震技術の応用としての高い評価から特別賞とし、また1件は、併進振り子式免震構造を美術館に実現した試みを評価し、特別賞として選定した。質の高い作品の応募者に感謝申し上げると共に、今後とも積極的な応募に期待する。

(神田 順)